



CQM(超短期経済予測モデル)

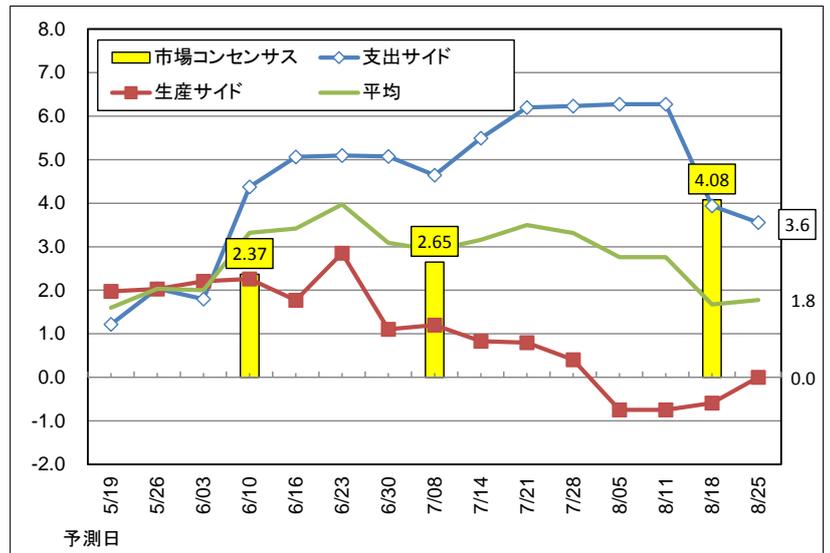
稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年8月25日)

ポイント

- ▶先週に更新されたデータは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。
- ▶建設総合統計によれば、6月の公共工事(季節調整値)は前月比+5.6%増加し2カ月連続のプラス。実績は事前予測を幾分下回った結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。
- ▶7月の輸出・輸入金額はともに前月比増加しており、7-9月期の貿易赤字の改善は緩やかである。
- ▶7-9月期の実質財貨・サービス輸出、輸入の予測値は先週からともに上方修正されたが、輸入の修正幅が輸出の修正幅を上回った。結果、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正された。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.6%と予測。先週の予測(+3.9%)から下方修正された。公的固定資本形成と純輸出の予測値が幾分下方修正されたためである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<7-9月期貿易赤字の改善は緩やか>

先週(8/18-22)に更新されたデータは、7月の貿易統計、6月の毎月勤労統計(確報値)、全産業活動指数及び建設総合統計である。これらは、民間企業設備、公的固定資本形成、純輸出及び雇用者報酬の予測値に影響を与える。

建設総合統計(出来高ベース)によれば、6月の公共工事は前年同月比+9.4%増加した。29カ月連続のプラスだが、3カ月連続で伸びが一桁となった。季節調整値(APIR 推計)は前月比+5.6%増加し2カ月連続のプラス。結果、4-6月期は前期比+1.7%増加した。2期ぶりのプラス。しかし、6月実績は事前予測を幾分下回った結果、7-9月期の実質公的固定資本形成の予測値は先週から下方修正された。

貿易統計(速報：季節調整値)によると、7月の貿易収支は41カ月連続の赤字となったが、前月比-4.1%減少した。2カ月ぶりのマイナス。7月実績を4-6月平均と比較すると、輸出は+2.4%増加しているが輸入も+3.4%増加しており、貿易赤字の改善は緩やかである。

7月の輸出入はいずれも事前予測を上回ったため、7-9月期の実質財貨・サービス輸出、輸入の予測値は先週からともに上方修正されたが、輸入の修正幅が輸出の修正幅を上回った。結果、7-9月期の実質純輸出の予測値は先週から幾分下方修正された。

今週(8/25)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.6%と予測。先週の予測(+3.9%)から下方修正された。公的固定資本形成と純輸出の予測値が幾分下方修正されたためである。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690